

令和7年度（2025年度）第1回熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策協議会 議事要旨

日時：令和7年（2025年）8月22日（金）10時～12時

場所：熊本市環境総合センター1階 学習ホール

1 出席者（敬称略）

委員長	鳥居 修一	久留米工業大学工学部機械システム工学科 特別教授
副委員長	源 明美	熊本商工会議所女性会 副会長
委員	一ノ宮 健	九州電力株式会社 熊本支店 副支店長
委員	植木 正彦	西部ガス熊本株式会社 取締役営業部長
委員	柳瀬 耕次郎	一般社団法人熊本環境革新支援センター 専門員 (熊本市地球温暖化防止活動推進センター)
委員	神田 みゆき	NPO 法人 SDGs Association 熊本 代表理事 (熊本県地球温暖化防止活動推進センター)
委員	岩佐 弘子	熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策協議会 公募委員
委員	若杉 誠	熊本県環境生活部環境局環境立県推進課 課長
(以下、2名は欠席)		
委員	西 治三朗	ユナイテッドトヨタ熊本株式会社 代表取締役社長 一般社団法人日本自動車販売協会連合会熊本県支部支部長
委員	柴原 崇	環境省 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長

2 次第

(1) 開会

(2) 議事

議題1 第2次熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策実行計画素案（たたき台）について

議題2 住民・事業者アンケート、こども向けワークショップについて

報告事項 その他（デコ活の取組、スポーツクラブとの連携）

(3) 閉会

3 議事内容

議題1 第2次熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策実行計画素案（たたき台）について
(資料1-1、1-2について事務局から説明)

神田委員 資料１－１、Ｐ３の目的について、「温室効果ガスの排出削減に取り組むことを目的とする」とあるが、取り組みによって何を実現しようとしているかを明記すべきではないか。

（事務局からの回答）

＜熊本市＞ ご意見のとおり。基本理念が最終的に実現すべき姿であると考えている。

神田委員 計画を見たときに、目的が一目で分かるように記載されていると望ましい。

岩佐委員 プラスチックごみが２０１３年度比で１３％増加とあるが、ごみ焼却施設によってはプラスチックごみを燃料としているところもある。現状はどうなっているか。

（事務局からの回答）

＜熊本市＞ 熊本市については、容器包装プラスチックについては分別収集を行っている。それ以外のプラスチックごみについても、分別収集を検討している。燃やすごみに含まれるプラスチックごみを減らすことを推進していくが、その結果、助燃材を使わなければならない場合は、別の問題が生じる可能性もある。そのため、生ごみの水分を減らす、コンポスト化の推進等も検討する。

＜菊池市＞ 菊池市、合志市、大津町、菊陽町では共同処理を行っており、容器包装は分別している。製品プラスチックごみの分別については、焼却施設における焼却時の発電効率を確保するために一定のカロリーが必要であることから、今後議論を重ねていく。

＜熊本市＞ 資料１－２、Ｐ７６において、都市圏が取り組む施策に「プラスチックごみの再生利用の推進」を記載しており、都市圏で取り組みを行っていく方針である。

岩佐委員 家庭では、プラスチックごみをどこまで綺麗にして分別すればいいか分からないとの声がある。

また、コンビニにあるごみ箱は、口は分けられているが、中の箱は一緒ということもある。事業ごみの分別については考えているか。

(事務局からの回答)

<熊本市> 事業ごみについても分別していただきたいと考えている。しっかり取り組まれている事業者もたくさんいると思うが、難しい事業者に対しては、我々が啓発していかなければならないと考えている。一方で、リサイクルする体制についても考えていかなければならない。

<菊池市> 菊池広域連合では、事業者に対して抜き打ちによる検査を行っている。結果によっては事業者に分別の徹底を依頼しており、継続的に取り組んでいく予定。

柳瀬委員 資料1-1、P6の基本方針2~4について、市町村ごとに設定とあるが、都市圏全体で目標を設定して、市町村ごとの目標を決定するのが良いと思うがいかがか。
また、資料1-2、P60について、森林吸収量は段々減っていく見通しで考えているのか。

(事務局からの回答)

<熊本市> 基本方針2~4については、市町村によって数値の算定方法等が異なるため、それを積み上げることが出来ないと判断した。また、新たな目標を設定せず、各市町村が策定している他の計画にある指標を使って評価するものもある。市町村ごとの目標は設定するため、それぞれの目標を達成した市町村がいくつあるか、という整理になると考えている。
森林吸収量については、-44万トンの目標を掲げる。一部の市町村の排出量に吸収量を含めて記載していることから、吸収量が減少しているように見えているが、トータルで-44万トンは変わらない。しかし、誤解を招く表記になっているため、素案の策定段階で記載方法を検討する。

鳥居委員長 今回欠席の委員からの意見を紹介していただきたい。

(事務局からの回答)

<熊本市> 西委員からの意見を紹介する。資料1-1のイラストについて、内容に注釈をつけるのはどうか、また、空飛ぶ車などのイラストがあってもいいとの意見をいただいた。今後の作業で対応する。
次に、資料1-2、P5に次世代自動車の注釈があるが、自動車業界では環

境に配慮した自動車ではなく、ICT 技術を使った、情報をやり取りするような自動車を指すとの意見をいただいた。そういった自動車には、渋滞緩和という観点からも有用であることから、計画内でその重要性にも触れられたらよいと考えている。

柴原委員からの意見を紹介する。住民や事業者の皆様には行動変容をしていただきたいが、コストメリットがないと具体的な行動につながらないと思われる。したがって、計画策定後の事業には、脱炭素の取組がコスト削減にもつながることを強く打ち出してもらいたい。そして、自分事として捉えていただけるような工夫をしてもらいたいとの意見をいただいた。

2 点目は促進事業制度の目標設定について、本計画では 3 件と設定しているが、認定事例が全国で 1 件であることを鑑みると、現実的な目標設定と思われる。認定事例をきっかけに、都市圏や全国へ横展開を計っていただき、加速度的に広がっていくことを期待する、との意見をいただいた。事務局としても、認定事例が増えていくようならば、中間見直しで上方修正することも考えている。

議題 2 住民・事業者アンケート、こども向けワークショップについて

(資料 2 について事務局から説明)

神田委員 熊本県が作成した「ゼロカーボンブック」も活用して、計画への表現を検討いただきたい。

鳥居委員長 ワークショップの結果について、氷河が溶けることが海面上昇を引き起こすような記載がされている。氷河がなくなっているのは事実だが、それだけが要因となって海面上昇が起こるわけではないため、こうした情報を正確に発信することが必要である。

源副委員長 今回のワークショップはどなたがされていたのか。

(事務局からの回答)

<熊本市> 熊本市では、学校の先生にワークショップを行っていただいたところもあるが、脱炭素戦略課の職員が行ったところもある。他の市町村では、学校の先生を中心に進行し、行政の取組は職員で説明する形で進行した。

源副委員長 小学生のこどもがいる時代が1番学校や地域との関わりが深かった自身の経験から、こども会でのイベントなど、ワークショップを効果的に行うための手法を検討してもらいたい。

(事務局からの回答)

<熊本市> 住民や事業者の皆様に自分事として取り組めるよう、啓発に力を入れていくべきところかと思う。今回の計画についても、パンフレットを作成してPRしていく予定としており、今回のワークショップでの意見についても、ホームページに掲載し、多くの方々に見ていただきたいと思っている。

鳥居委員長の意見について、資料2、P6については、ワークショップで出たこどもたちの意見をつないでいるもの。ご意見を踏まえ、今後、正確な情報を発信していくことによってこどもたちを含む住民の皆様が自分たちで判断ができるよう、環境教育を行っていく必要があると考える。

報告事項 その他（デコ活の取組、スポーツクラブとの連携）

(資料3について事務局から説明)

鳥居委員長 全体を通して意見はあるか。

神田委員 資料1について、マスタープランでは、上位計画として総合計画があり、その下にビジョン、マスタープランがあるという表現をしているので、本計画にもそのような表現があるとよい。

若杉委員 実行を伴ってこそその計画である。10年行っていく中で、進捗が悪い分野及び市町村が発生するかもしれないが、そういった場合についてもしっかり進めていただきたい。

鳥居委員長 2021年から都市圏共同で推進している例は他に無いので、情報発信していったよいのではと思う。

以上